

共卅本

成形圖說

農事部

十二



特別
= 1
144
12



門=加 /
號 /44
卷 /2

成形圖說卷之十二

目錄

水利 シラノクサ
附 旱潦 ヒヤクモク

堤防 ツツミ

堰埭 サセキ

柴柵 シガラシ

石籠 アラコ

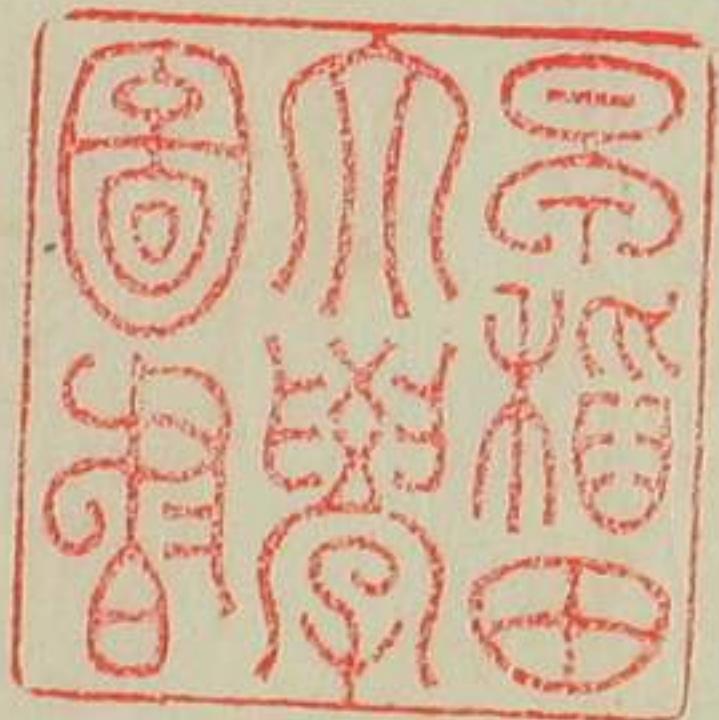
樑杙 ササキ

陂塘 ササキ

瓦竇 シメビ

附 捷 ササキ

附 架槽 カサ



成形圖說卷之十二

て熱帯に育きしつゝなほとやまて天日よ亞て生くるの徳
 あるハ即水も是ハ地よおいてハあるともしつゝも其
 地にしゝるを其を其の種も亦々樹蔭の及も絶
 せざるゆゑ河もとの膏壤ありとも瘠地よ芳なること
 ありかり所を深く井と鑿きく水と引て村邊を住立
 果工夫あるし万葉集よ大君ハ神あしませば其乃
 づ川荒山平よ海とみくくもと流るゝも氏の水利と得
 ざるふくく大池と掘くやむいせ永く恩深と被りまら
 ば氏も徳と仰きなりて天皇ハ其よ魂神よと傳しませ
 ばその大山中とともこの池とありまらぬと録しなり

也 暑鮮ハ日曼ハ脚獵ハの時乃反身ハハゆえをを多し明
の身よておみ端書ありしり蓋失しあるしハおの
考考るに何 又其ハ石に由てあるものされも志石の沙礫
とと交る所ハ出有あしとも天水と保ち濕氣と帯てお
 のつゝゝ湿润の氣ありいゝおもして其を引きぬと
 あきは上腴の其稼と得し素より水涵もあり地利も
 よほしきふまはハ何れいろの也及んし其利あきおも
 天日此光さくまづき地あるハ人力と想さんにいりな
 る高畑マカハラ曠野ありとも氏とつし田と營業イサムノサと作サし
 といふ色りゝ河邊は夏の物盛ササも亦亦みどり立は火氣
 の照徹テリトホクて其氣の潤も亦亦梅雨ササメ乃後土地も殊サより其

日のあがりよ天日此火氣みきかりり照り透るる地ハ
 ちうくと蒸きつるもて火乃温物あるれハ物生し
 了しされを北より南ハ人間も多く出生し誠者地
 道につきて繁く殖ゆゑ水土の利常又暖地つ偏て寒土
 に關ぬとてれハ水氣を常に北よりありて稲種と播き生
 米實つりよ味もくまり故ハ人の氣質も北方ハ強く
 南方ハ弱し凡南ハ偏寒ハ強寒也偏温ハ温り去り去
 く今の報夷人ありて日本と古ハ寒地ハ
 破りくもくありしありと私ハ今ハ寒地ハ
 今さるの温ありあつて土よりて是ハ氷炭と
 日本中土と報夷の偏土と何とて人物とくべとのハ
 地夷ハ古の遠制傳る事ハありて南島今清王の燕乃地

に都や一ハ北虜と然るの遠也一ハ南方ハ深
 是さるにあり是之大都會地ハ北方り建ぬれハ南方
 一財散せし朔方に民聚る偏安ありやうの爲と
 一ハ○山堂肆考云三代以上天運主於西北故戸口莫
 盛於西北舜禹分天下爲十二州淮漢以北居其九淮漢以
 南居其三周公分天下爲九州淮漢以北居其七淮漢以南
 居其二三代以下天運主於東南故戸口莫盛于東南西漢
 元始當天下十之一東漢建安當天下十之二西晋太康當
 天下十之三唐開元當天下十之四宋元豐當天下十之五
 是蓋天運を因て偏と云 本邦の在昔と夷攷や付 天

と作立の政あるは志くれとも南地は氏と北方は徒さん
 とすは配所を氣さうやうも恐運致さうあり人氣
 の帯に陽を向ひ且ハ土と積りの情自然あるゆゑんな
 里○法妙ハ山國水國の空わき山玉ハ岐間谷川の
 地多くも田も山田あるハ旱歳ハ相ささとも日あり
 里河く寛のり少し水國ハ退歩多く栗田かちあぐ日
 あたりよる道とも洪水溢る時ハあつて水座ともさり
 但地乾きよまよハ水落やとしさうハ一國のうりにハ
 山田も村田も互に間創て作さるハ旱潦の災ありと
 も一方ハ若まぬものそけい海の神 天孫に教とす

して兄作高田者君可作湊田兄作湊田者君可作高田為
 然者吾掌水とらひしあや河り高田ハ乾燥の地雨に宜
 し湊田を旱渇の地旱に宜し海神水釘を減て旱潦の備
 と存やりそ言宣淺くあうこや 凡火水の性火を上り水
 又水流の行行するハ程如の顔要娜り如し大川の筋に
 同るとそ性なると直さまに極きりてそ流と導たそ流
 新と跡と新田なるとに早ぬるうあ道と性り性
 ゆゑまいりともく友と流しを後て或ハ海渚ともり
 或則以ともりとも再ハ修造ともまに却てそ導射る魚り
 ちさうに安地ぬれハ一市に街さう屋敷を穿流ともと
 断ともと安地ぬれハ一市に街さう屋敷を穿流ともと
 の各階と怒るとまハ山陵に擡臺と屋敷を穿流ともと
 鮮と流ともりともハ山勢急峻とを志し伏を烈しあ
 れハ池はく魚かゆハ柔ま道ハ帯に在押色花りか
 名に凝す道ハ川魚し水停あう自由にあつてあう
 多し志うれに大雨注るとつあ時にあ道ハ人馬もそ道

水界の
入退ありとの限ありし歟よあはるのありしを
いづくくことせりりれ輟耕録袁介踏災行農
家争水如争珠と傳り按古事記に天之水分神國之
水分神ありは水分八分配あり万葉七三芳野之水分
山とよめは 大和とては水分の大和河内相傳安
の所は水分の神社多し凡て是をを龍し功を成す
る神とあり志すは此神社一と大和河内多すは
オホハロ ミツロ 大和より争水の事志すは是は田水分配なるの神
ありしと云へり此今の用水ありし溝源係ありし

の吏とおれし出雲風土記に用水所集とありて用一
ハ田の字は カチ 田を用水といふと既に令
よも出くありき事あり東鑑文治四年三月十九日遠江
守義定使者參着於當國所領今下人等引用水之處近隣
熊野山領住民等相支之間起鬪亂相互及刃傷云々戰國
策云東周欲為稻西周不下水東周患之蘇子往見西周之
君曰君之謀過矣今不可水所以富東周也今其民皆種麥
無他種矣君若欲害之不若一為下水以病其所種下水東
周必為種稻而復奪之若是則東周之民可令一仰西周而
受命於君矣又晉書云杜預修郡信臣遺跡激用渚涓諸水

以浸福田萬餘頃分疆刊石使有定分公私同利衆庶賴之
號曰杜父○水の指川といふハ陰陽早潦を忌むるに
爲りたる方と按撫するにあり五六月忠實田に水の
深さ管扱おれしく二寸許ありハ瑞よく實のりあり是
赤土上田此地より中用を一修歩又水三寸ありハ夜直
あり無し下田ハ四寸ありハ大率と○旱魃の患和漢
極難と云万葉の歌に雨降る日の連ハ樹し田を播し畠
も朝毎に萎枯過と詠日後漢書獻帝時三輔大旱帝避正
殿請雨遣使者洗囚徒原輕繫是時穀一斗五十萬豆麥一
斛二十萬人相食啖白骨委積帝使御史侯汶出太倉米豆

為飢人作糜粥經日而死者無數帝疑賑恤有虛乃親於御
座前量試作糜乃知非實使侍中劉艾出讓有司於是尚書
令以下皆詣省閣奏汶侯汶考實詔曰未忍治汶於理可杖
五十自是之後多得全濟○新儀式曰若四月以後八月以
前久不降雨必有請雨之事中引神泉之地水灌京南之田
畝災旱尤甚農業多損或降詔命減除服御常膳之物又免
調庸租稅之未納又遣使諸社奉幣祈請就中丹生貴丹二
社別令祈禱或令奉黑毛馬基長の歌に神垣小引弱の色
乃危んとして雨雲さそひ丹の川上ト部兼俱記曰一條天皇正曆二年六
月炎天連日萬物衰色社又曰八九月間淫雨不霽必有祈霽
詔奉官幣於十九社

鮮大旱洪水の時止雨請兩國王親々勢はまり井ノ口鄙野ノノは
 ては地頭祭をして巫覡と祭るふとをけり又沖繩玉城間
 切玉城キタマシロの玉井とて霊泉あり國王毎年雨請の事あり
 光年沖繩早の雨國王の涙を歌かして志と民の苦業を
 りれはむれとて和河まつくの神世詠して大雨
 傍河より河海つくと海祇ミヅウミまでけあさりトミ豊見城高嶺
 ありとて山嶽時て故城の址多しけあハ明如年中潮平
 親雲上土佐の大島一深着也一附の活也海祇ハ豊玉彦
 城ありとて古事記吾掌水とて河はハ祈雨の事無
 官ありとて和訓聚にありとて事ありとて

よ復此よも載りり文德實錄曰嘉祥三年詔以武藏國奈
 良神列為官社先是彼國奏請和銅四年此神社之中忽有
 涌泉自然奔出既田六百餘町民有疫癘而愈人命所繫不
 可不崇祀之按奈良神社ハ田道の靈社也田道ハ仁
 伊寺の水門イノノ神水旱疾疫大子民功徳あり其靈神の赫
 著觀るべし但享和辛酉六月陸奥國牡鹿郡蛇田村ヘビノ子田
 道公の墳を土中ツチノ獲と云むの或者シテ姓シ氏ノ録曰巨勢男荒
 田村の名子縁ツグて偽イツ也シと云むト野上ノノ既水シ難シ至シ荒シ能
 人皇極御時遣ツク細葛城長田其地野上ノノ既水シ難シ至シ荒シ能
 鮮機術始造長ツク械ツク川水灌田天皇大悅賜ツク械ツク田ツク臣ツク姓ツク此等ハ
 或は官社ツク列ツク收ツク或は姓ツク氏ツクと賜ツク水ツク流ツクとてツク村ツクの谷ツクり
 糸ツクハツク湮ツク氣ツクとありツク一ツク定ツク政ツク八年ツク累ツクの根ツク是ツクより忽ツク法

水大に涌出たりて水勢福田千斛の用ありと既以爲し
 凡源委ありし所は泉の沸出たりとすはるる乃地中
 循環ありとすはるる又古事記に御井神ありとすはるる
 井城作て民の利と無しとすはるる御功ありとすはるる

 玉曆云凡欲穿井處於夜氣清明時置水數盆
 於其地者何星光最大而明定必有甘泉五雜
 組云遇深山無泉之處掘井一二丈不得水者可束蘊薰之
 而密覆其上火烟不得出必尋泉脈隙處潛通即它山數里
 外泉皆能引而致之烟通則泉湧矣北征錄云尋泉入山遠
 道及砂磧之處之水者掘一穴容一二石許用濕蓬艾滿中
 燒之猛火而閉一小穴相通四望之但見烟出之處不論遠
 近掘之得泉肺也妙哉石中即近石掘之如山即草木掘
 之砂磧揮高處掘之此能救急但烟出多水惟深更妙亦但
 尋煙出處皆有水一食頃烟未出者再開一穴求之無不得
 泉肺也宜博志之朝鮮師律提綱云營邊如無水者以地中
 殷葦水草之藪及地有蟻穴其下必有伏泉可開井取水又

尋野獸踪跡去路不遠有水如遇緊急水隨行者須用羊皮
 渾脫盛之或大葫蘆亦可是等的一件田土沃灌の用あり
 きのまよおひて集義外書云山は國を立て第一の事
 補ありとありし

 集義外書云山は國を立て第一の事
 山のまて君の象なり山乃草木つきて土砂の川谷を成
 るる上は衆人の爲すは矢のくまなくおろしとすはるる
 洛つきそ夏亡の玉をかしき椹城くくともといり涓涓
 のつきも教くくハ水上地山の草木つきて神氣うきく
 流水の身をちきくなり大雨とくく土砂を爲し入て川
 成うつみ流るる山とくく川源城くくめくくなり
 といみくくを法候る地とくくまといくく名山大深
 は封せ山は気と通し雷聲お助くはるる神靈の行程あり

播磨備州の海をよけし敷郡の北の夕立を
神氣及を播磨の淡路島より起す夕立を備州を
小豆島より雨を起す京都近江なほ六月七月の旱より
夕立を湖の沖氣はよきな京まで夕立おほ
れりそ上北よつきて涼山多しそのちり高の崇嶺の
さまりこれに雷気あり淡路島の、とよきを京までこれ
ハ神氣と残りあまのれを神氣ともいひ又々竹法園
共く松山と好ハ本とぐらやまをさうゆきまは松山ハ多
志りてこと神氣のきまけおをむりつし松山あは下
学生せとありて虫を松よかきしは雨露田島よ入

てハ毒ともありおハ浦淡多と相無乃本あり山を種
本よ志くハなし紳書曰越前松原集代よありて國乃
東南よありる白山より今居つて、まは海に里あり
よふ十里とて美濃路へつてく山あり本をきけまはと
いふむかりなし此山と二万五千里とて新まんとむむ
よのけり國ハ日よおとらつての社をそて既よゆ
さふしむにありしに奉納集まはるるこれとてそ
のをとて向ハ城下舟橋川乃海ハかの川とて此
川の先ハ波のより登してまはるるまをきけて高水来
る所ハ舟舟橋川ありて、く出のさて、と舟橋まて

わらひ多りこれハ山園乃大雪なりといふもあの下
岩もさか海へ入りつゝハ春よふれともまの指乃雪
解て後漸くは解ゆもやとねむる雪水かくのごとし
あゆれ本ときり拂てふり積し雪の一時は解来
らんハ城下の人家こしく包水の申もあつて人氏魚
とさうしハそれのこまは吹くかハ水入して田畠
換てあつていづくもさかりあかしく又ハ山乃
雪漸くは解きハくそ夏もあつてそれと解てハ川で
用もさうして早もても換てあつしりの雪一時は解さ
となつハ春ハ大水なるハ濁みし水早もつ川の換て一二

まをひやくして幾万石の換てあつてハくも流られぬと
いふハちとにそのみやぬも也閑田耕筆曰近江春根
の陪臣大菅中菅父ももの地を換てあつて山乃林懸茂せんと見付
不細とあつてにつまてま家の山乃林懸茂せんと見付
是と伐旁て代もあつてはかくあゆもも及まもハくも
む農夫いれこれあつてハあわのふやびいふもす
つゝハくもまハくもあつてハくもあつてハくもあつて
とのやあつてハくもあつてハくもあつてハくもあつて
れハくもあつてハくもあつてハくもあつてハくもあつて
好むくまれハくもあつてハくもあつてハくもあつて

よふありそ昔漢のわづいのあゝの室あつはくよとけり
とふく是をてあ日ハありておるあふ塞とありうこ
はれバあ日よハあるふとありれとふせりりといへ
日凝るハ水氣あるあよよくつむは日ハ室あつはくよとけり
室あつはくよハ水氣あるあよよくつむは日ハ室あつはくよとけり
とんと上田新成ハ秋ヤリ聞見録云王荆公好言水利有
小人諂曰決梁山湖八百里水以為田其利大矣荆公喜甚
徐曰策固善決水何地可容劉貢父在坐中曰自其旁別鑿
八百里湖則可容矣荆公笑而止予以為類優旃滑稽漆城
難為陰室之語故書之万の利と況よのあつはくよかくこ

そありはれ昔漢のわづいのあゝの室あつはくよとけり
とふく是をてあ日ハありておるあふ塞とありうこ
はれバあ日よハあるふとありれとふせりりといへ
日凝るハ水氣あるあよよくつむは日ハ室あつはくよとけり
室あつはくよハ水氣あるあよよくつむは日ハ室あつはくよとけり
とんと上田新成ハ秋ヤリ聞見録云王荆公好言水利有
小人諂曰決梁山湖八百里水以為田其利大矣荆公喜甚
徐曰策固善決水何地可容劉貢父在坐中曰自其旁別鑿
八百里湖則可容矣荆公笑而止予以為類優旃滑稽漆城
難為陰室之語故書之万の利と況よのあつはくよかくこ
そのありはれ昔漢のわづいのあゝの室あつはくよとけり
とふく是をてあ日ハありておるあふ塞とありうこ
はれバあ日よハあるふとありれとふせりりといへ
日凝るハ水氣あるあよよくつむは日ハ室あつはくよとけり
室あつはくよハ水氣あるあよよくつむは日ハ室あつはくよとけり
とんと上田新成ハ秋ヤリ聞見録云王荆公好言水利有
小人諂曰決梁山湖八百里水以為田其利大矣荆公喜甚
徐曰策固善決水何地可容劉貢父在坐中曰自其旁別鑿
八百里湖則可容矣荆公笑而止予以為類優旃滑稽漆城
難為陰室之語故書之万の利と況よのあつはくよかくこ
いふく是をてあ日ハありておるあふ塞とありうこ
はれバあ日よハあるふとありれとふせりりといへ
日凝るハ水氣あるあよよくつむは日ハ室あつはくよとけり
室あつはくよハ水氣あるあよよくつむは日ハ室あつはくよとけり
とんと上田新成ハ秋ヤリ聞見録云王荆公好言水利有
小人諂曰決梁山湖八百里水以為田其利大矣荆公喜甚
徐曰策固善決水何地可容劉貢父在坐中曰自其旁別鑿
八百里湖則可容矣荆公笑而止予以為類優旃滑稽漆城
難為陰室之語故書之万の利と況よのあつはくよかくこ
一應禁制所損水邊山林産業之勢非只堰池浸潤之本水
木相生則水邊山林必須鬱茂大河之源其山鬱然小川之
流其岳童焉爰知流之細大隨山而生夫山出雲雨河潤九
里山童毛盡谿流涸乾五畿内七道諸國山川海江濱野林
原等一切收入公私共之但山岳之體或於國為禮事須蕃
茂勿令伐損中大堰之岳專有禁制小川之山不在禁限因
百姓憚遠貪近川上山林任意伐採至有旱年溉之苗焦動

遭損害職此由也望請川谿泉源溝池等縱既田水邊山林
 敷澤不問公私悉加禁制並莫伐損令曰凡取水溉田皆從
 下始依次而用其欲緣渠造碾磴經國郡司公私無妨者聽
 之即須修治渠墻者先役用水之家とんえとん今稻田用
 水も縁とふとの一二條と標して他日稽查を極さる材
 質と云

土積書紀○即堤坊也三代實錄貞觀十一年敕
 夫積土築堤尤為避水河決之害甚為難防

田手亦土手と書るり田中
 堤坊堤防義同し正韻築土過水曰堤壩壩亦堤なり○石堤前漢書溝洫志據堅地作石堤勢必完安經解云以

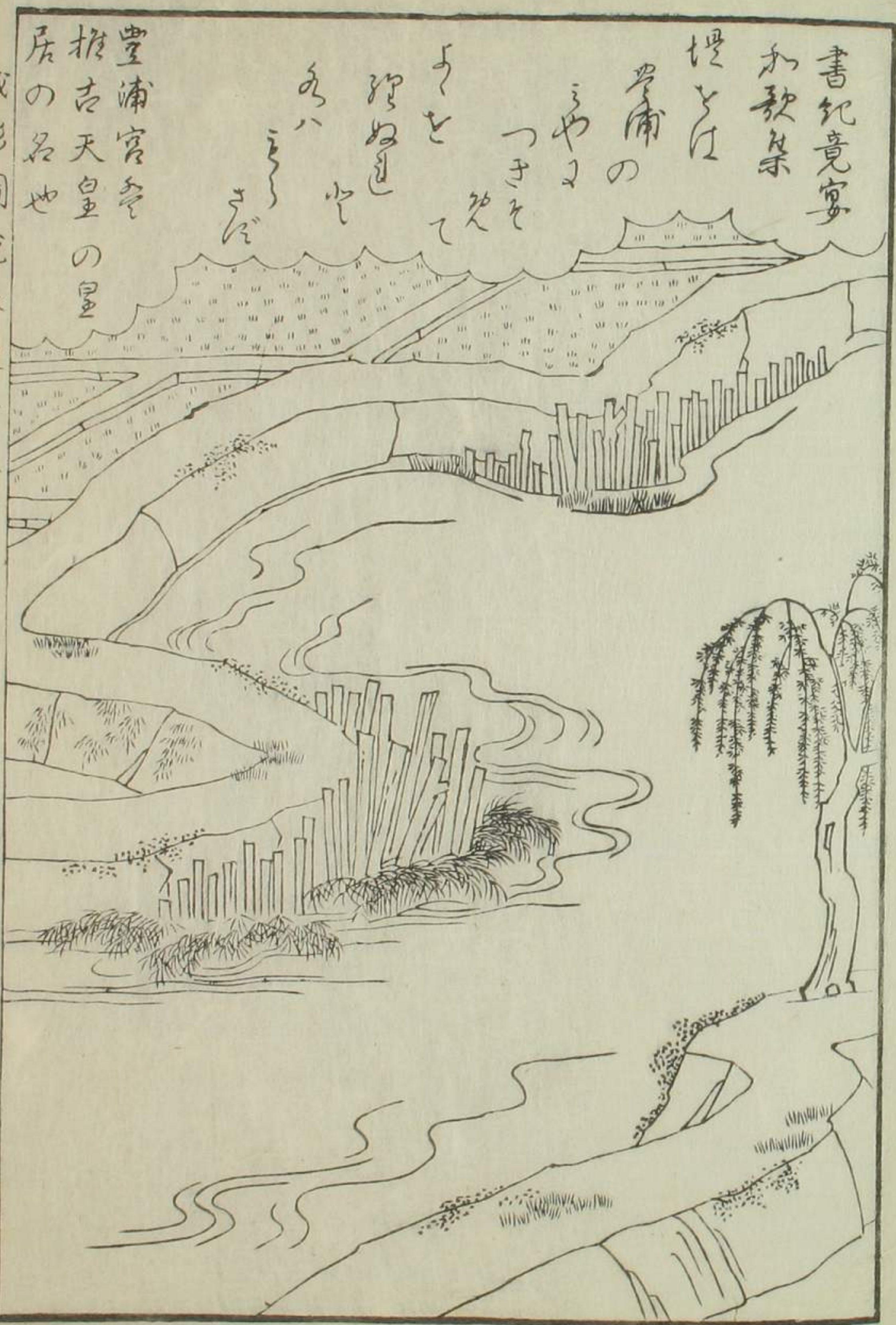
舊坊為無所用而壞之者必有水敗
 蕃名テイキ

氷ハみみく防とらふ流わさ地官の秘訣と云子魚し
 其御豆くみの激イハラはゆるに人して宥しるまをりそ
 ありしりまハ池臺として水路を平小なるま御わす池臺
 まであはしりて流を北に導きして流へさせ直ま
 東南の下ニキ一向て流はゆるに導くと緊要と云流は流
 ても川あらにて堤の表も水停タビふと海のくくあれハ
 出かくりゆりオホミツはゆるは諸水ふく交るる水たゆる
 よあせとんふとるり堤ハ壁ハみ中一埴土は壁あは

くるりふくく死水のまゝあぐを筋は使唯出水の流術
 の直子菊はあ敗なり○水出て堤お決り手馬のふと
 く修むしえの力を振て水付あしてお堤と残をふと
 多方ハ六六皆理してよし水の流弱よりよき河下知と
 度く築置し○堤破損の時股付上重春ハ川表と骨付
 よいよと敷して細草の根もえ敷置けハ堤裏と築置
 し敷して冬築する土よハ夏秋よりり土肥築築建り夏
 築するハ秋冬よりりて土瘠て弱安し○堤川表より柳と
 う忍面し何れの本ふくくと上高きハ堤の爲よりりハ柳
 ハとと優整てよし細草抑ハ堤の股よりり丸葉揚ハ堤
 乃根よりり根と付て付よりり抑ハ土

ともめて堤の足堅くするものそ万葉に柳根漲とつ
 つあつと楊の枝ハ土よさ使よいと能根と付て築れ
 あつと加人の身ハ實用 式曰凡神泉苑廻地十町内令
 京職栽柳町別又堤の外ハ荒地あはけ櫻杉檜栗の樹と
 植てよし七株水出るとり兼て栽る免魚し令營
 繕式曰凡堤内外并堤上多殖榆柳雜樹充堤堰用と之ハ
 堤井せきの浦子没くるふとより駭河風土記曰榎田堤
 每歲仲春仲秋之望令
郡民植柳栗別一千丁食充國府師家其食塩 ○堤よ
充御保由居廬崎海戸三年別防河使令之正事矣
 築つるよりハ堤なりあはあ、いりえあおるより小
 口築より用しけあより業付るより築小口と下築よ
 てハとと業口とと東人の業築ととといり○堤

茅端口のあまり斜ありハ、大船一俵の法さるハ
 し天智紀三年於筑紫築大堤貯水名曰水城むりしハ土
 と築城と云一巨然巨川かど水衝ハよく堤決かむ
 づら交ハ其地形ヲ随テ二重堤と設ベシ其交平平日ハ
 田疇ヲかして可出堤ハ此位あり凡堤と修繕さるハ
 ハ堤足と堅固ヲすべし堤の裏土と取べりらむききて
 川中ノ高ミノ土と固ク掘テ取ベシ是と壺掘といハ
 ○易ノ千丈之堤以螻蟻之穴潰といフり堤ハ漏れ
 ハ速ニ墜ハシ凡堤の下より水漏れハ堤表の下
 越本竹あくるはこは海ノ刺心これハ水漏れより溜



井キ刻キ和名鈔○刻ハ壅也凡水子井とて呼ぶる多し

為世久新撰字鏡 井手万葉集○手

堰埭和名鈔引唐韻堰埭壅水字書壅水為埭曰堰

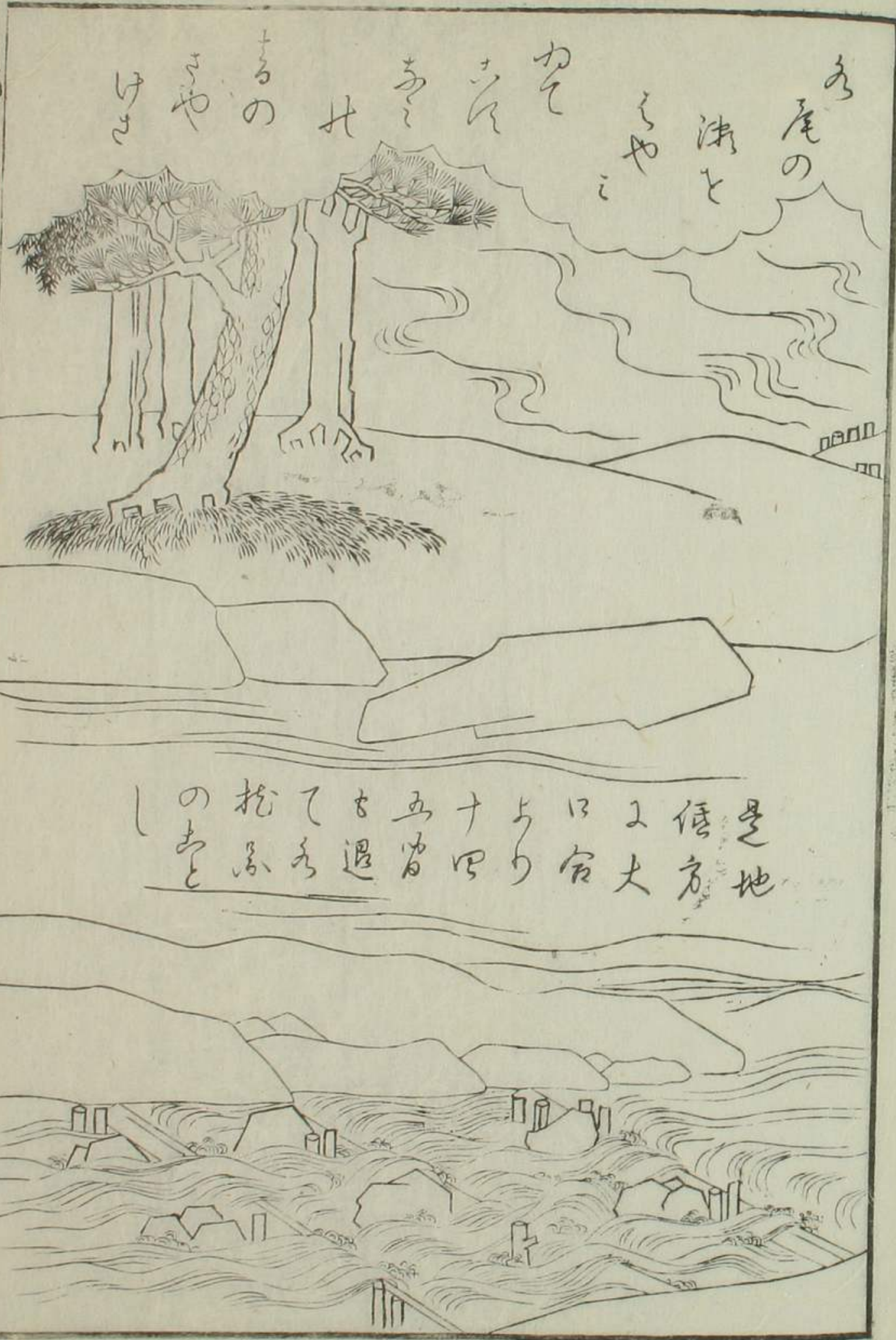
壅埭字典壅埭以土障水也魏志劉馥治吳塘

諸埭以既稻田

著名カPテイキ

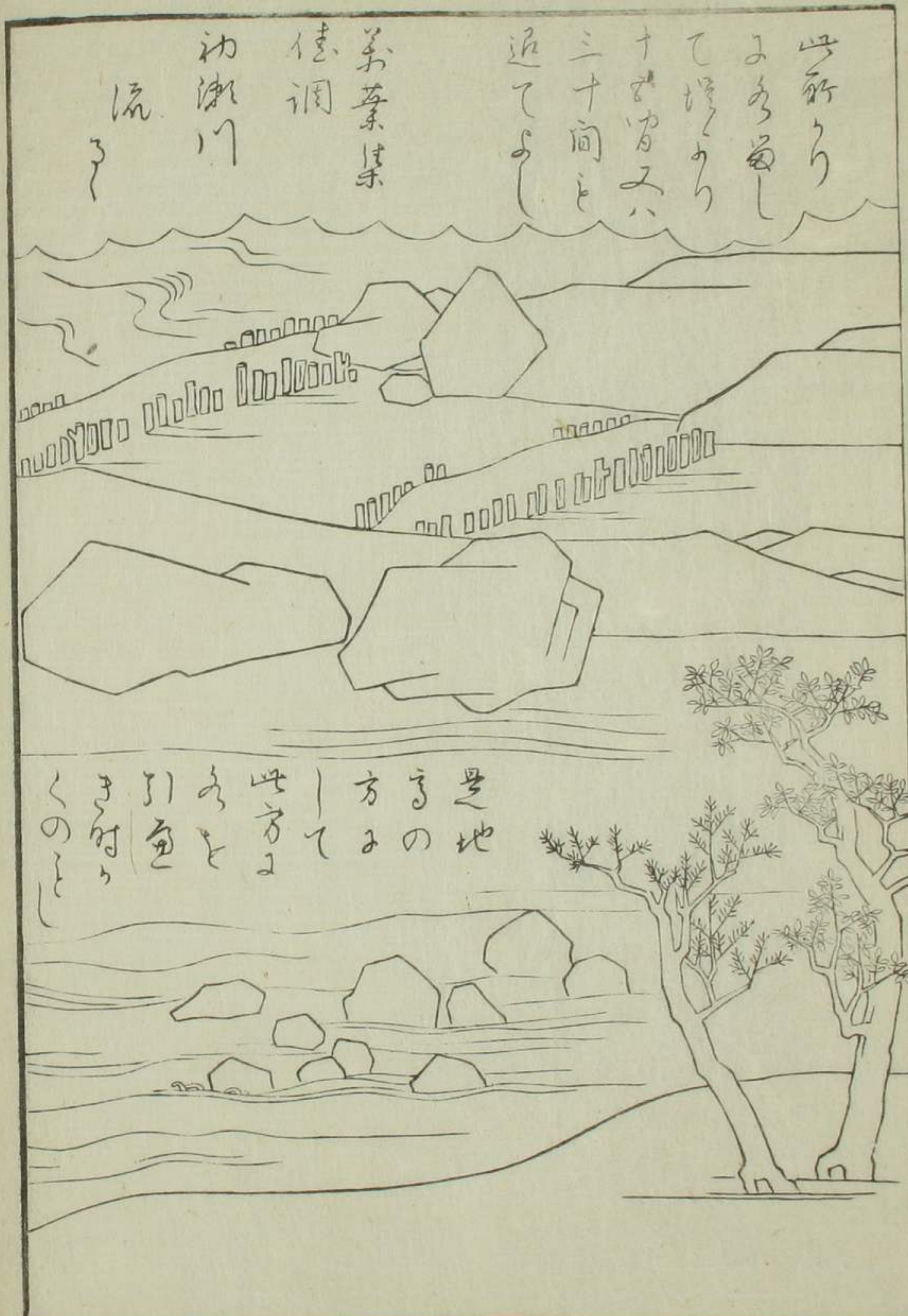
今義解曰堰所以蓄水而不流者也川と築切らむ方より
仕出し川の去中あつて築留し大川と築切あはれ流す所
あつて見合ふし是と大に合ふといふ理道要訣云秦以李冰
為蜀郡太守造百丈堰灌田數千頃蜀以富饒○川築留か
流す時ハ土石ふと懐み入させ大川の所へ前方より

持ちけ築留し○川下窪す所ふく押埋ふ水枕てつと
のど二宵ふくつらり川の恰好より足付ふ留し川
の流分マより変より十宵或二十宵と下りて流ること
く水枕つてつと流るゝ地高の方へ流るゝ留し地
窪の方へ流るゝの流るゝ方へ水強く流るゝられハおの
つらゝ窪くられゝ上地低き方へ砂と押込み増す
さ危うもつと通鑑魏紀云將濟豫作土豚過斷湖水土
亦作土塍土地以草裏土築城及填水也○容齋四筆云乾道九年秋贛吉連雨
暴漲予守贛方多備土囊壅諸城門以杜水入



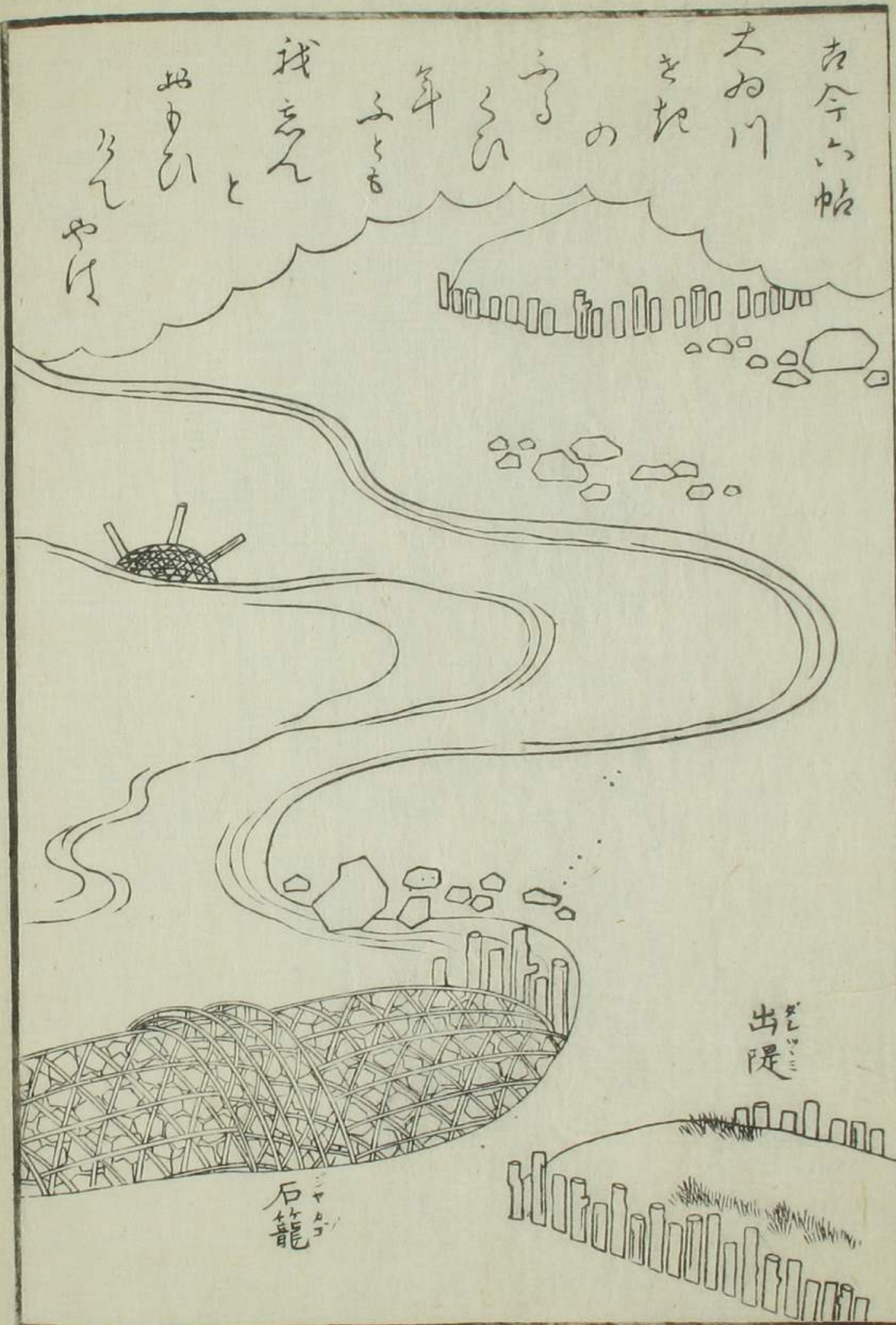
あ
尾の
流
と
か
や
か
あ
井
の
さ
や
け
さ

是地
倍大
口宿
より
十回
五宿
ても
掘る
の
あ
と



此所
より
よ
る
ま
し
て
増
す
り
十
八
間
又
六
三
十
間
と
近
て
す
る
美
葉
集
徳
調
初
瀬
川
流
る

是地
方の
方
子
の
地
此
方
と
引
き
く
の
と

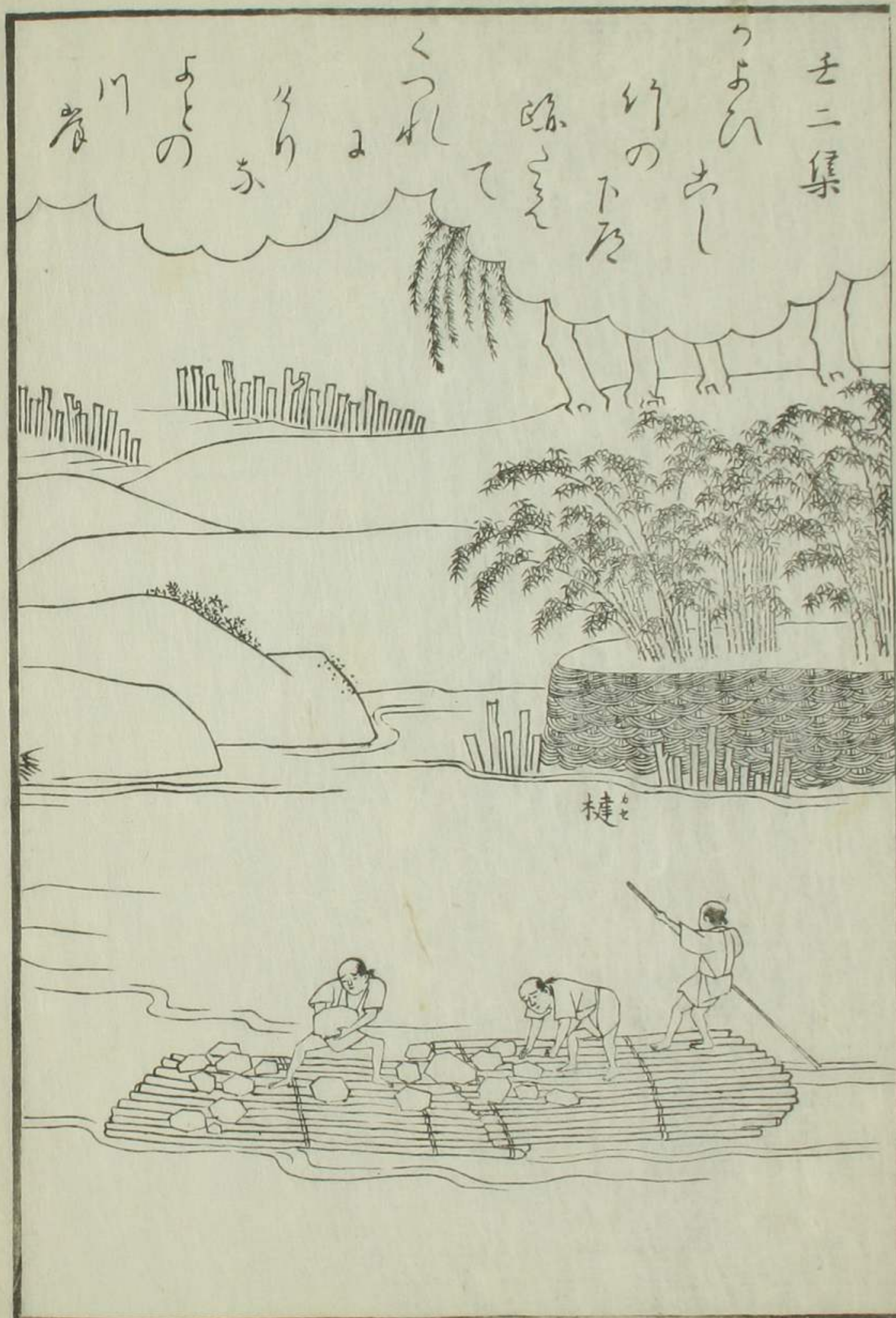


て作して石と實は魚し着の管よりハ水揚葎葎類と多
 く植付し根深く立ち有りて土をかくむあり又葎小て
 保ぐるま所ハ石籬と築出あり是を石癖と云ふ其製
 損松材にて柱と立一間小とに丈丈する柱と折衝はと
 貫し或ハ竹にてかくこ管ハ小柱ともおし角の管よ
 ハ大石中ハ細石と實凸よると積ありも長ハ一丈五
 尺より凡各中用るの材ハ節無松とつゝハ松ハ節
 土を築て之を堤て朽ぢ又左右を離て石籬と立よハ
 大小ともおしあり大を中とよおして水勢よきつぐ
 あり但水大よ出ると河流よついで土を築て葎を

くり葎籬つて健籬と吹くゆゑ水上に埋籬と深く魚
 し埋籬ハ水上に葎を立ちこむ深きより二尺許り
 深くありて川底の地底より一尺ちとも浅くあり物
 うり埋しるそ○埋籬の高は四五尺の度使まけて地
 なら埋川表めくもくもしくも川裏と歌まゝして
 よし○又石籬設ぐるまの葎の根立おくも流ハ葎の
 上におと架してまよ土と積むしかくすれハ重と
 ありて葎の根おのれと地よ入るおし時揺らぬもの
 其○大川と浚るハ川上より路里小川石川ハ川末よ
 り浚ゆし○川中よ出洲置河洲置ありまハ其海の

左名子掘井と泉のふとく石籠まで仕かけぬれば水
勢子押さそ沙洒おのつゝ浸散まりそ我柱ハ上の石
籠の重りて漸くと土子入ふと深く赤しさて我の裏
下も復も泥沙溜りて空洒おまゝゝハくして土沙と
よく流さぬし○或日堰埭の堰ハ直下引くと堰脚と
以小川ハ必水行せたりたがりてそ水溜り土溜りて
溜り川底高くせたりて流せ支つる多しれ小川ハ
そ流の屈曲はゆるに流せぬよそ流しきれと
是ハ塹澮乃細流の事なり○しゝ大坂川中の堰
出極石堤と砌て水勢よく自疾かゝるあつゝ、河溜借

水攻水の策を設もり元禄甲辰何りてそ横堤と
築き撤てそ跡と新開とすゝるに田穀散りて土
民之と別とせりゝとらけぬもりゝゝとそ水溜り
和法所の水田より淤泥せぬ侵て溜り沃壤の水田
より石滄没とまりて復治せぬとゞゝるにもしり
是元来ハ水勢と疾して泥沙の壅塞おとなく急流へ
くの氷圍と急流とそ水勢の急よそ急と没し流
急ても出堤と廢るる水勢緩くまりて泥沙と洗ひ流
せよ力よく流し氷上も溜りて田地と漫溢せり



論課不課戶皆令丸頭輸之川忽乃出ハ人水いでし時の
考よし出れ也さ向の堤よささぬをうま察水乃為
てわされふり住滞弱とふみせよ○凡之し雨り浸堤
ふりの崩るハ上より流流もよつと土中より漏出
ふれありよそ竹苞の類を植て土をかゝむるうまふと
あるさなられハ幾度破てと梅雨ありあるまハまの堤
る勿し

加世蓋川塞 田手掘
捷音健溝 志武帝自臨下淇園之竹以為捷塞決口註以草塞
其衷乃以玉填之也

蕃名ドインヘルム

凡海川等の堤渡水食ひは所あはふ竹苞茅草の類
は宜し古事景行卷曰定淡水門又作坂手池即植竹其堤
也とあり竹枝樹れハ土かゝる乃為りり畿内河
功紀曰水至柔而能攻堅凡當其衝者雖缺石必壞故以力
爭之者卒不能勝焉竹捷柔輒而押承而制之則水無所施
其激搏之暴而自得循軌而行貞享中治大坂河也多下竹
篠分挿接樹以為捷凡一百八十餘丈本邦未嘗聞有為
捷者今始用之とあり然とも景行の御時以竹植
堤しつたよ即捷あり但古文簡めて人捷と

察々存耳

水留ミヅドメ古事記

田中井戸催馬樂歌○鈔田中の井戸ハ池と掘て水と

溜井溜井水塞由利田耕筆田乃多と取井子

水塘三才圖會昂跨池也因地形物下用之

陂塘農政全書○禮記蓄水曰水塘

蓄水潦或修築堀以備灌既田既田

蕃名ワアトルコム 亦ヘイフル

溜池より既くふの田所と池田と又駿河風土記池田

神社ハ所祭事代主命祈雨祭之とあるり六観る

一し正字通俗壅水既田曰畔田農の法一用水一種物

三介備この三つと欠てハ田也又五日乾ハ三割

邊ハ十日乾ハ五割又崇神紀多開池塘以寛民業

是今の溜井の始多り聖仁紀曰令諸國多開池溝數八百

以農為事因百姓富饒天下泰平也是字もむては陂塘と

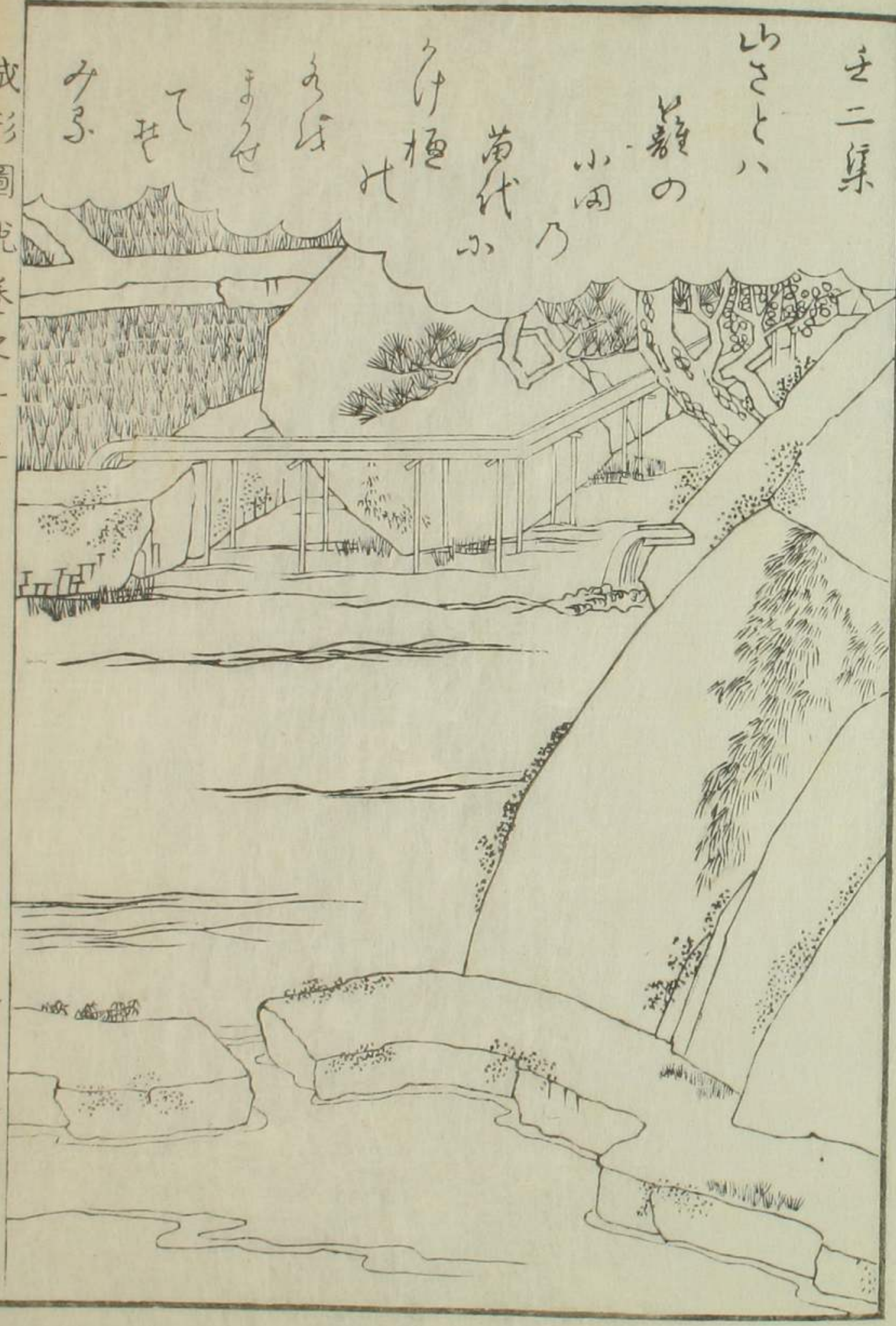
蓄下流と導下と高仰僻隘の地といへとも野も治て

溜田とあしゆりゆり水計十所の田一引五さ水五

面均平均深三寸懸と尺三溜井ハ山と行五て堤と

築九乳為所ハ申井と擗と吹ありせて溜

杜甫
 六月青
 稻多千
 畦碧泉
 亂挿秧
 適云已
 引溜加
 溉灌更
 僕往
 方塘
 決渠
 當新
 岸公
 私各
 地着
 浸潤
 無天
 旱



成形圖說卷之十二

三十一

之二集

山とハ

小田

乃

苗代

此

此

此

此

此

淮南子決

塘ツツ發ツツ槓ツツ

下ツツ槓ツツ

乃ツツ槓ツツ

少ツツハツツ槓ツツ

相ツツ似ツツりツツ

明ツツ皇ツツ尺ツツ

瓦ツツ竇ツツ

石ツツ檻ツツ

室ツツ塞ツツ抑ツツ

錢ツツ塘ツツ湖ツツ

石ツツ記ツツ

蕃ツツ名ツツドツツイツツクツツルツツ

溜ツツ池ツツをツツ天ツツ水ツツ田ツツをツツ使ツツふツツ

溜池を天水田を使ふもの多し池の内は尺八と云ふ

古事記○万葉集同し私記土下度槓也按俗田

言土槓亦底水道是也近し即暗溝陰窺也

新撰字鏡排瓦槓新六帖踏越る道はふせしは尾

乃字と訓、瓦槓の朽もさしうのとある

ハ瓦槓と瓦竇と字意下開尺八尺ハ源氏流と

是ハ陰溝なり

唐逸史

農政全書瓦竇泄水器也又名函管以瓦筒兩端牙鏗

相接置於塘堰之中時於田水須預於塘前堰內疊在

以護筒口令於啟閉不然則水湊其處非難於

亦衝溢滲漏不能久穩必立此檻其竇乃成函窺

同左傳自其實

入字典竇水道也

尺八ハ孔七ハあり十三四ハ五ハあり

底水道越通し田ハありりくはなり彈正式置槓通水

とありと下槓とあり也攝津風土記山伏下槓而從此槓

内通云々田子水りありとありあけ上一番の槓と接去

は尺八の中越ありて田地一流も漑く夫より尺

は第二番目の槓とありかやう小槓とありは小槓

と接畢は溜池地ありて放き流るる夫より又尺

ハの槓と挿あり雨ありぬ水漑はふとありや唐

白居易錢唐湖后記一名上湖周廻三十里北有石函南有

窺凡放水漑田每減一寸可漑十五餘頃每一復時可漑五

十餘頃是尺八の水はりけりね回し又白居易石函記

懸桶姓氏錄械の字と訓正軌出格子やくく門子掛笈

通桶架越

架槽三才圖會木架水槽也間有聚落去水既遠各家共力

水性趨下則易引也或在窪下則當車水上槽亦可遠達若

遇高阜不免避礙或穿鑿而通若遇坳險則置之木駕空

而過若遇平地則引渠相接又連筒同上杜甫詩規

左右可移隣近之家足得借用

類篇通水器亦作笕水笕也集韻以竹通水也

蕃名ワパトルレイディング

井

桶和名鈔〇械の字と為比訓なとと書紀みけ械と比池

桶の義より勝間田の池乃いひると海あり

開口

開門正字通舊注同肺今按漕艘往來市石左右如門設版

蕃名ハルテユールハンデテイキ

開ハ備蓄洩之溝ハ田一水とかけ引さるるあり是と伏

さふ浅く伏さ敷らあり、あはの地形より深く掘伏下

土と平子均し開と伏両端と堅實て處命を給一開の

りより写さるの均場のあつと均等を蒙てよし是ハ大

水の河川の戸を閉はし開弱くせりやと云ふ所の由志石
 砌と築て開の戸と云ふは二重の戸と云ふは内は板入
 ぎらあり凡用水の樋一尺四方とてその水ハ百所の田と
 管とといつり王禎稔論云蓄陂塘以儲之置隄開以止之
 ○落堰ハ流す所と堰をくくは多く人力は用も上堰さ
 ら一あり工夫と費やせり少し間敷多きは浅き所と見
 計の堰濬を魚し水よく通して堰さる一あり工夫と省
 るる也 落堰欠損せし先一色ん堰てあ少し通しんせり
 のり上より下の思積し堰て去り水多き所と分るを
 し○思水落堰ハ川下より堰初て川上と細河下と廣く
 掘りし是水とよく流す所と云ふなり○用あり川に堰

石川上と廣く低く川下と細く高く掘てよしと云ふ
 れる下流より上り水積りし先川上より掘初て用あり
 と云ふ右の地へうらまを掘りし 堀の坪を一坪大は人足二人
 荷四分は くりあり 堀の坪は一坪大は人足二人

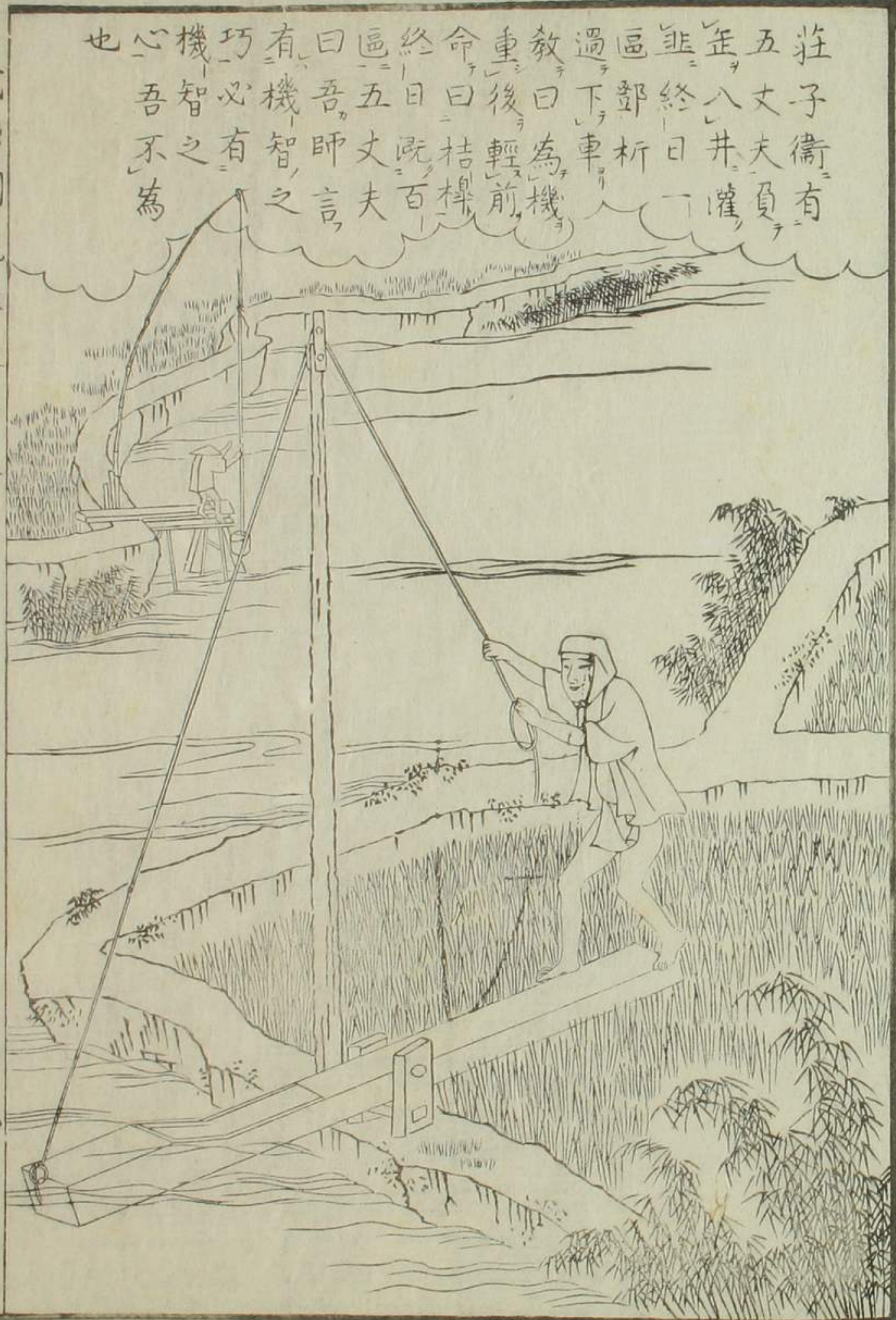
金網井カネコ書紀カネ今言カネ絞車井カネあり太平記カネ摺卷カネと書るなり
 弾ハ金網カネに鉄索カネを用あり
 桔槔カネ亦作カネ樺カネ莊子カネ桔槔カネ者引之則カネ

蕃名トツト上ムル
 桔槔 亦作樺 莊子 桔槔者引之則
 俯食之則仰 通俗文 機汲水也

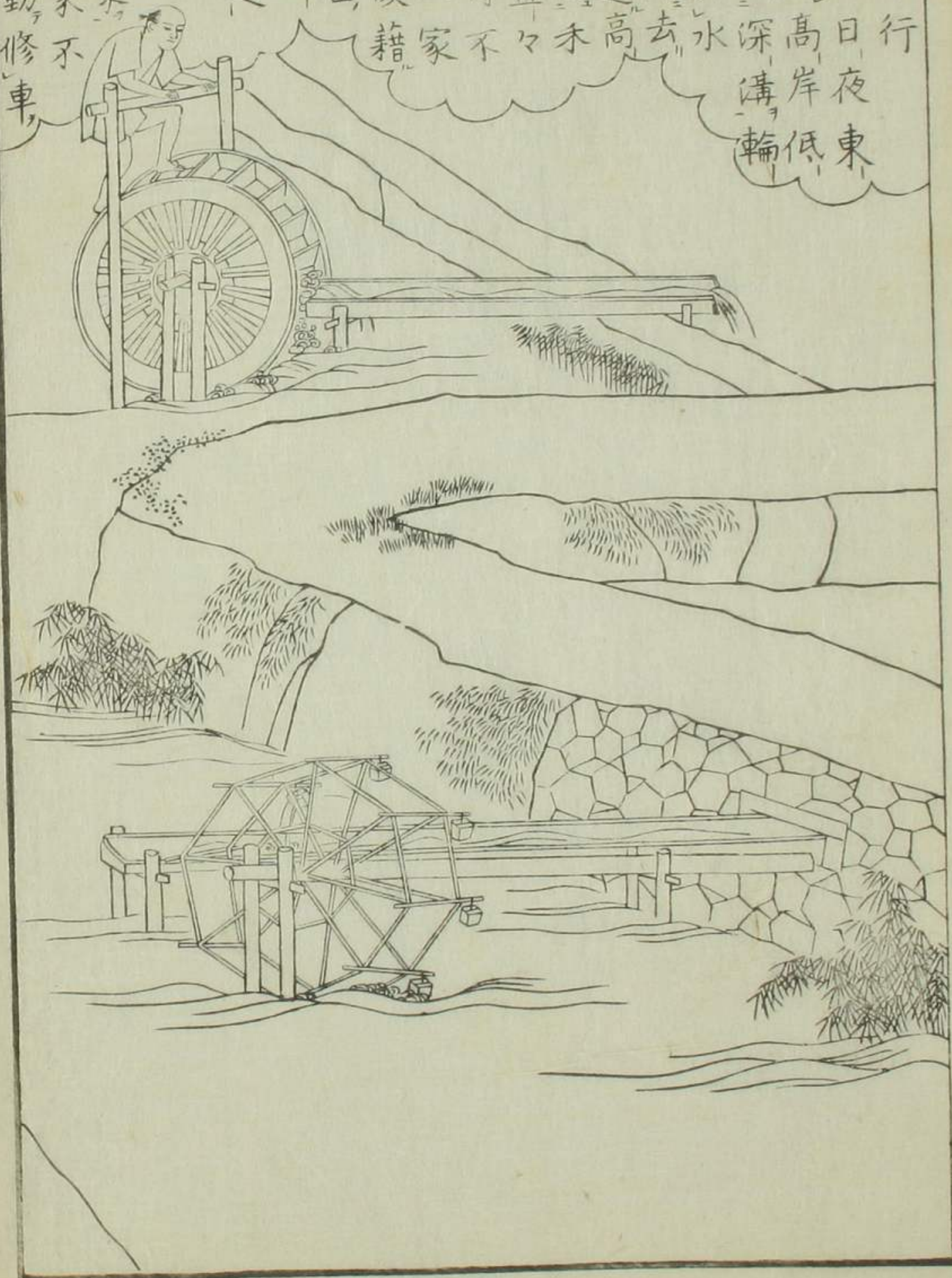
水車 ミヅクルマ
日本後紀

此の用カ少而見功多しと称然も數千畝の田
 子水越盈^{ミテ}さむらとのば升戸^ノとる取^リりく^ク地^チあ^アく^ク事^{コト}な
 ら^ラ川^{カハ}渠^ミ河^カ所^トは^ハ水^ミ上^ノ架^カと^キ撞^ツて^キ巨^キ竹^ノと^シ磨^ヒし^テ大^キ桶^ヲ
 と^シ釣^リめ^ケて^シ槽^ノより^シ田^ノ子^ノ汲^リか^クは^シま^ヨろ^シ
 投^ナ罐^ニ和^シ名^ノ鈔^ノ罐^ノ汲^リ水^ヲ器^ヲ豆^ノ流^レ閉^ルこ^ト訓^メり^即水^ノ汲^ル
 水^ノ斗^品字^ノ箕^ノ挹^水者^ノ禮^大記^木角^註角^ノ轉^水之^斗廣^リ
 蓄^名ウ^ルプ^ウシ^ムル
 小^ノと^大人^ノ相^對して^シ其^ノ緒^ノ便^ニ成^テ執^テて^シ稻^ノ田^ノ一^ノ擲^ニ溉^ルとの^{あり}

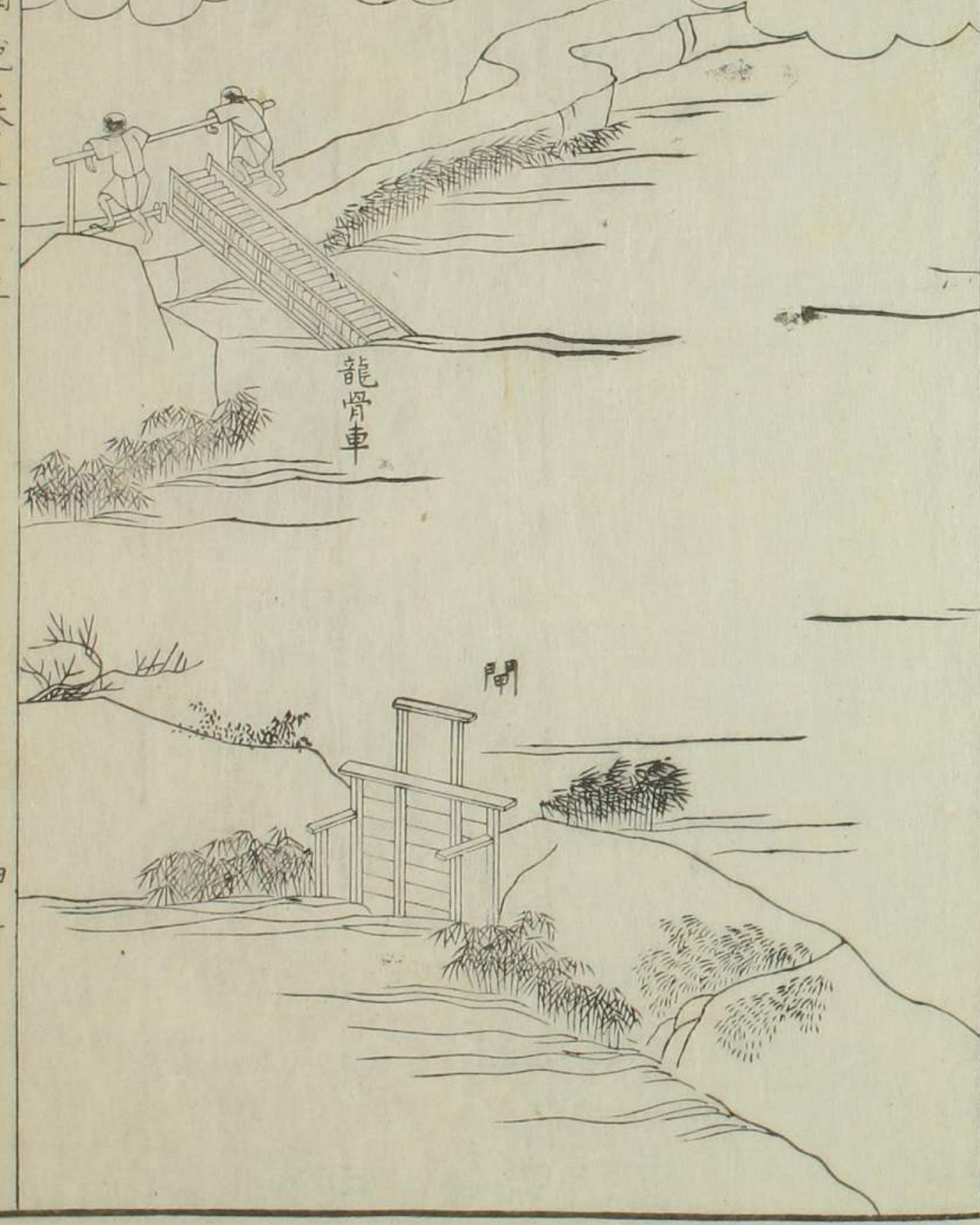
莊子衛有
 五丈夫負
 非終日一
 區鄧析
 過下車
 教曰為機
 重後輕前
 命曰桔槔
 區曰既百
 曰吾師言
 有機智之
 巧必有
 機智之
 也吾不為



水車行大江日夜東
北流高岸低
圻開深溝輪
盤引水
入溝去
分送高
田種木
黍盤々
自轉不
用人家
家復藉
水田一
力車之
食力
十家
十家
禪勤修車



明何潛
齋
片々龍
鱗蛻老
蒼省時
咿嘍捲
滄浪真
機動處
何容力
自是
傍人脚
手忙



利宇古志 即龍骨車の約語あり

筒車 三才圖會於一輪之一週水激轉輪衆筒壘 翻車 同上

水次第下傾於岸上所橫木槽謂之天池

云翻車今人謂龍骨車也行道板一條隨槽濶狹人憑架上

踏動枋木則龍骨板隨轉循環行動板刮水上岸又踏車踐

尾車恒升車玉衡車と亦斯製あり

蕃名ワートルモールン

日本後紀天長六年夏五月太政官符曰大納言安世作水

車云云以為農業之資其以手縛以足踏服牛廻等各隨便

宜若有貧乏輩不堪作備者有司作給今按以手縛ハ龍

尾車の類也輪軸のハコト以足踏ハ即龍骨車也服牛ハ牛轉翻車あり徒然草ハ飛山後の御池ハ大井川の水

と引やれむとて大井の土民に仰て水車と造られ

己多の淺と給て數日ハ嘗て廻りしりるハ大

轉りのきれハ板のり人の里人と召て揃させられハ

安らくに結てまわらせりるり馬やうも轉て水

と汲入るると答ていかりりり○夫本集ありあきり

治の川流のえ車者とてとて水車板は板は道

駒乃頭 名物六帖○是車の水汲桶ハ板と打て

渴鳥 後漢張讓傳作翻車渴鳥註渴鳥為曲角以木引水上

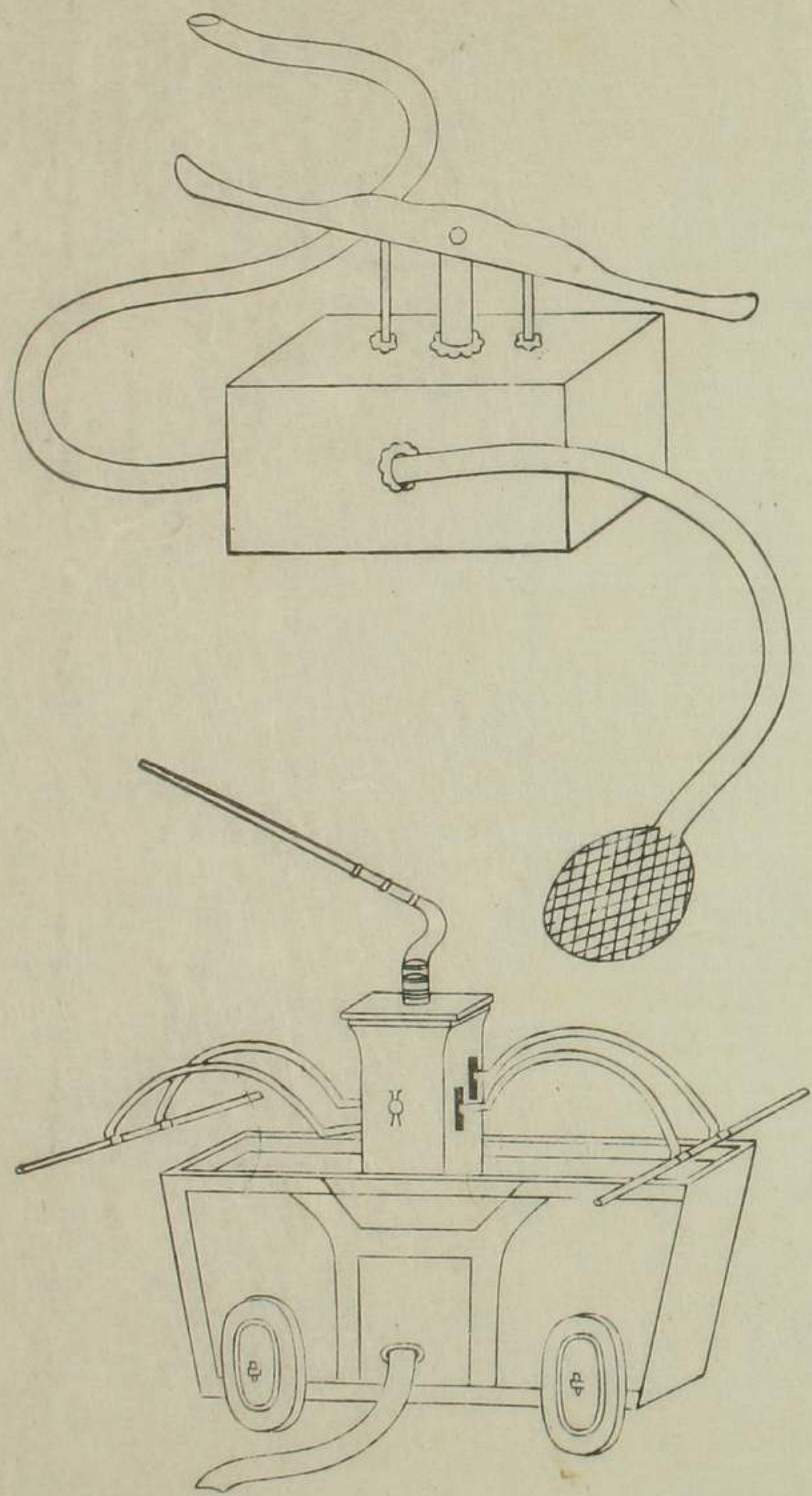
者也○古鳥考畧渴鳥受水之器如鳥之渴飲也○亦

龍並同

蕃名

恒升車ハ俗言龍吐水也其くるり其製ハ革或ハ布にて
 囊とこくらく筒のやうして幾十箇をも繋ぎて其
 の一端と井泉の底に浸して左右より鞆ツバをいれおとして其
 と吸弁せり上の一端をけりお所へ振つけ清きかく
 ばなり是龍尾車リウシヤの及ぶ所の壁立深淵の氷をく
 ち急いでくちまれば山よさかのちくせ又累よと逆走サカシし
 して其囊ツバハ桐油トウアブといしと漢書カンショめてあると漢書カンショとて
 より囊ツバふれハ屈伸自由クツンジュウに鞆ツバへ流リウつるりゆるり言遠途
 坳カウの田所ともえくちをえけりおとていふとていふとていふとて
 和蘭の製して蕃名スボイトといふり

恒升車 蕃名數樸以鐸





東坡
翻々聯
聯銜尾
鴨犖々
確々蛻
骨蛇分
畦翠浪
走雲陣
刺水絲
鍼抽稻
牙

龍尾車

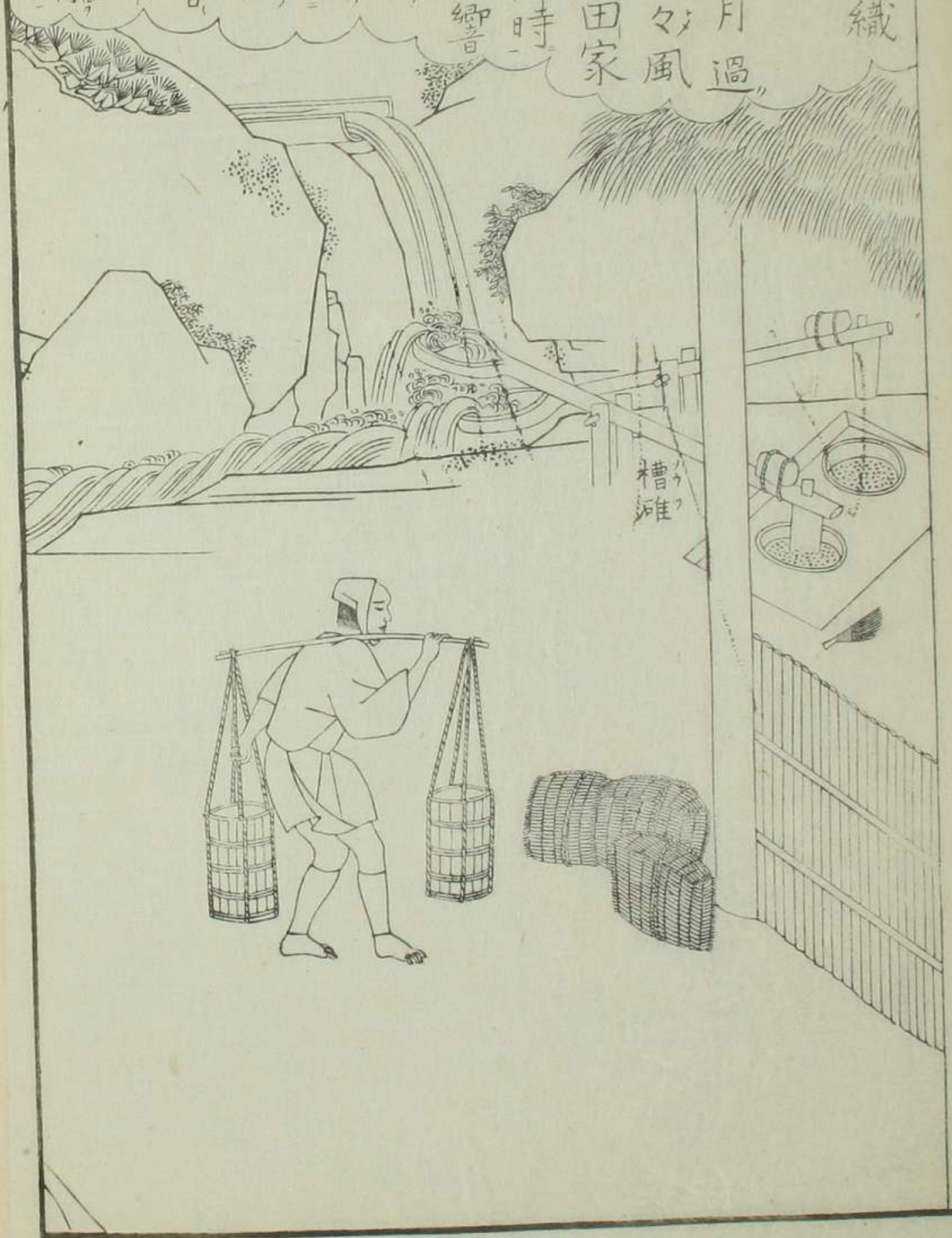
龍尾車ハ河浸まで水と引揚るの器あり累接して水と
 上れを山をも引くまじし是一人の力と以て田二十
 畝どうはるの功とまじし此の内に螺旋の孔道
 あり外ハ圍して水を洩さるる旋子轉り升る長一丈と
 れハ水の高低は是三四五の句股の法ありこれと
 一えを升るを横斜の度引一人またを
 龍車ハ山陽道よりありて水田に用ひる也方一間許の
 箱の底と咬違ふ昇るると川は幅は浅く依て箱中に蝶
 鉄の板と箱柄と附て押とさハ板窄引ハ板昇くやう
 小して其勢につまそ升るあり柄の端は拐あり

玉衡車を井泉の水と掬くりて水潭の製つくりの末すえくふし
 て田畝の旱の防まごるよ一井といひて名と灌かんを敷畝と温ぬるへ
 し一人もて一畝と動うごせし百泉送おくりて高たかき針はりといひ
 あり大旱おほいありとも敷針はりと合あて人力相代あひかり汲くみ取とりて
 町の田うらとも乾かわ涸かるや是江河泉間かみの名なとて高たかき
 上かみ越こえり屈曲まがりて道の終はつりて巧たくましき
 の操あそびなり

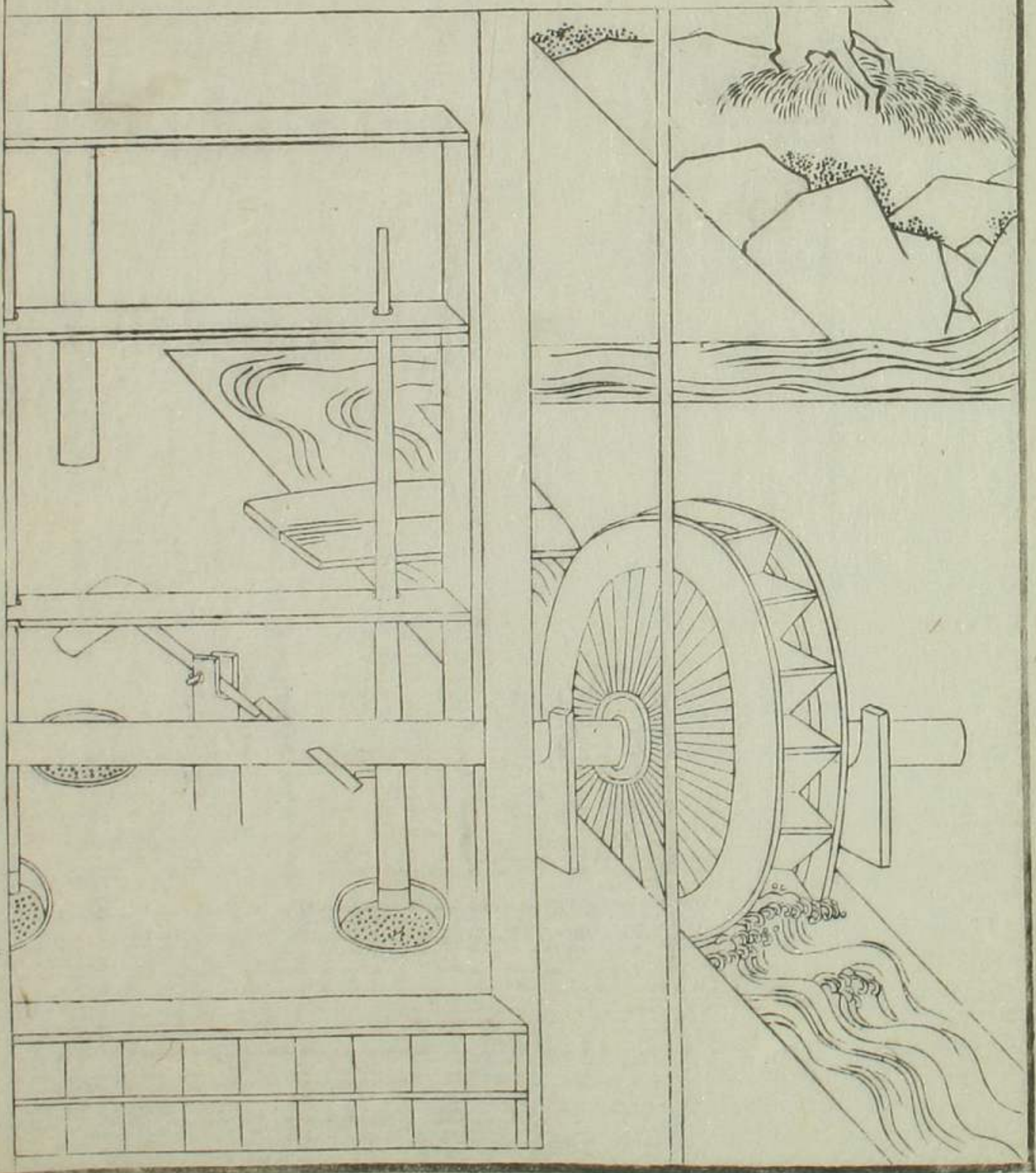
水碓ミウス書紀
 水車ミウ曰



宋耕織圖
 娟々月過
 璫，軟々風
 吹，葉田家
 當此時
 村春響
 相答
 行，聞
 炊，玉
 杳，會
 見，流
 匙，滑



更須
 水轉輪
 地碓勞
 蹴，弱
 金葉集
 早，漸
 行，ぬ
 我，車
 浮，子
 め，か
 志，色



成形圖說卷之十二

水碓 增續韻府○三才圖會機碓水搗器也桓譚新論水碓
激使自春即其遺制也又轆車水磨水磑水
磑水轉磑也水轉碾也ふととるんり

著名ス夕ムフモ一レニ

天智紀九年造水碓而治鐵式キツクニ也此事載シ於堰渠作水車轉磨磑ワタリ

と派疎シりシもシ用ウ山城志曰於堰渠作水車轉磨磑ワタリ

曾布豆 鳥威トビの曾富騰トビの詩野碓無人水自春トビ蓋水牌トビ

此者コノモノの曾富騰トビの詩野碓無人水自春トビ蓋水牌トビ

水鳴子

槽碓 三才圖會碓梢作槽受水以為春也凡所居之地間有
減細後梢深闊為槽可貯水斗餘上此以厦槽在厦外乃自
上流用笕引水下注於槽水滿則後重而前起水瀉則後輕

而前落即為一春如此晝夜不止可得米
兩斛リウコク日省二工以歲月積之知非小利
承澗流為小碓水滿勺碓首即起就トビ

自春遲速小異功倍杆春俗謂之勺トビ

著名シケツプス夕ムプル

水臬 天智紀十年獻水臬○漢
語鈔準繩の字と訓ゆ

壅準 水盛 水繩

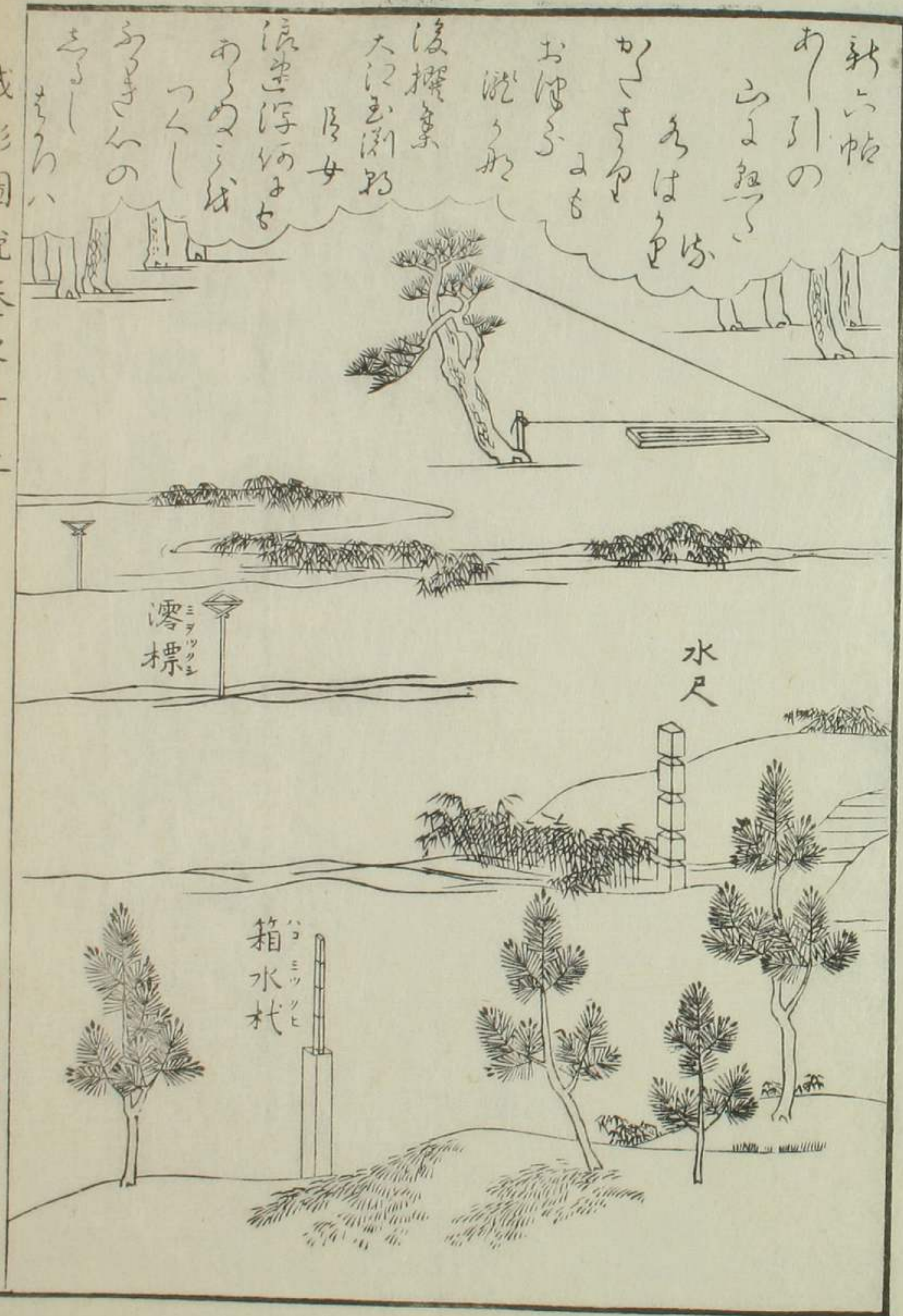
水平 通典木槽長二尺四寸兩頭及中間鑿為三池三池各
三齒齊平則為天下準置照版竿亦以白繩計其平則高
下丈尺分寸可知謂之水平○衍義補疏家謂以水平地於
四角立四柱於四柱以水望其高下即知地之高下準繩
然後平高就下而地乃平殆今世所謂水平也總

孟音 孟音又與蘭同考工記匠人建國水地置槩以縣疏槩柱也

成形圖說卷之十二 四十六

以縣者欲取柱之景先須柱正欲柱正當以繩
 縣而垂於柱之四角四中繩皆附柱則柱正矣
 蕃名ワアトルパス

凡平原の地は新小渠澮と疏えんとするその地面乃
 高低とさりぐさき時ハ夜中を將子撫らんとするの地
 面の一町或ハ半町毎子篝火と燃し川上川下より之を
 望み觀る其火光の高低を察して地面の隆夷を審み
 歷し又川流の淤泥と浚へば舟の土は篝火と焚て
 其火をてつとあきらんで川面の浅深と識ふとあり漢溝洫
 志觀地形令水工準高下河内圖會子譽田八幡宮四季神
 事の中正月十四日月新と交て曲物子あを八板子同と



と申す年申此水汁何合と申す是祢宜の役あり

水脈津籤ミツツクシ 萬葉集マンヤク 水ミ 尺シツ 寸スン 又マタ

衛石ヱシツ 紀キ 子コ 忍ニ 越ヱ 乃ノ 誤アヤ 故コト

水尾木ミヅオキ 舒明シュメイ 紀キ 子コ 平ヘイ 水ミヅ 表ヒヤク 政セイ とある水表ミヅヒヤク 遠方トウホウ の濁ニ り

水則ミヅノチ 別マカ 幢チュウ 製セイ 如ニ 梓シ 徑キョウ 七シチ 八ハチ 寸スン 出デ 土ツチ 可カ 三サン 尺シツ 餘ヨリ 其ソノ 趾シ 入イ 土ツチ 不フ 知チ

若ニハ 于コト 蕃名フキナ メー ト パ プ ル

類聚國史難波江始立ニホツクシ 濇標ニホツクシ ○雜式ニホツクシ 曰凡難波津頭海中立

濇標ニホツクシ 若有ニホツクシ 舊標ニホツクシ 朽折ニホツクシ 者ニホツクシ 搜求ニホツクシ 拔ニホツクシ 去ニホツクシ 之ニホツクシ 學ニホツクシ 曰水尾津ニホツクシ 津ニホツクシ 半ニホツクシ 八ニホツクシ 若ニホツクシ

葉遠津ニホツクシ 淡海ニホツクシ 乃ニホツクシ 乃ニホツクシ つニホツクシ のニホツクシ よニホツクシ しニホツクシ ありニホツクシ れニホツクシ 一ニホツクシ つニホツクシ 六ニホツクシ もニホツクシ 何ニホツクシ れニホツクシ どニホツクシ ありニホツクシ

子ニホツクシ 名ニホツクシ 高ニホツクシ しニホツクシ ○水楸ニホツクシ のニホツクシ 一ニホツクシ 製ニホツクシ にニホツクシ 川ニホツクシ 中ニホツクシ 一ニホツクシ 大ニホツクシ 船ニホツクシ のニホツクシ 相ニホツクシ とニホツクシ 建ニホツクシ 敷ニホツクシ のニホツクシ 内ニホツクシ

子ニホツクシ 竿ニホツクシ とニホツクシ 挿ニホツクシ てニホツクシ 竿ニホツクシ のニホツクシ 中ニホツクシ 子ニホツクシ 板ニホツクシ とニホツクシ 似ニホツクシ ありニホツクシ 浮ニホツクシ じニホツクシ やニホツクシ うニホツクシ 小ニホツクシ してニホツクシ 水ニホツクシ

のニホツクシ 淺ニホツクシ 涼ニホツクシ 乃ニホツクシ 從ニホツクシ てニホツクシ 竿ニホツクシ 中ニホツクシ のニホツクシ つニホツクシ つニホツクシ 若ニホツクシ のニホツクシ 口ニホツクシ よりニホツクシ 上ニホツクシ 子ニホツクシ 浮ニホツクシ 出ニホツクシ 浮ニホツクシ

れニホツクシ 八ニホツクシ 竿ニホツクシ 愈ニホツクシ 高ニホツクシ くニホツクシ 枝ニホツクシ 也ニホツクシ 申ニホツクシ 急ニホツクシ 速ニホツクシ 方ニホツクシ よりニホツクシ 申ニホツクシ 急ニホツクシ のニホツクシ 出ニホツクシ 是ニホツクシ 也ニホツクシ 申ニホツクシ 急ニホツクシ

成形圖說卷之十二終

